

## 会議録

会議の名称	第9回 西東京市都市と農業が共生するまちづくり推進委員会
開催日時	平成24年12月14日（金曜日）10時00分から11時20分まで
開催場所	保谷庁舎 防災センター 講座室2
出席者	委員：伊藤会長、貫井副会長、石黒委員、長谷川委員、村田委員、本橋英次委員、本橋正明委員、宇田川委員、柴田委員、坂本委員、山田委員、高井委員 事務局：手塚部長、萱野課長、五十嵐課長補佐
議題	1 開会 2 委嘱状の交付 3 挨拶 4 議事 （1）平成24年度都市と農業が共生するまちづくり事業の進捗状況について （2）平成24年度都市農業フォーラムについて 5 その他
会議資料の名称	資料1 第8回西東京市都市と農業が共生するまちづくり推進委員会会議録 資料2 第9回西東京市都市と農業が共生するまちづくり推進委員会会議資料 資料3 平成24年度西東京市都市農業フォーラムの企画概要
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録      発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>1 開会 事務局： ただ今より、第9回西東京市都市と農業が共生するまちづくり推進委員会を開催する。はじめに委員の皆様が、平成24年8月23日をもって任期が終了したことに伴い、再任の手続きをさせていただいたことを報告する。新たな任期は、平成24年8月24日から2年間となる。 なお、本日は、再任後最初の委員会となるので、ここで委嘱状を交付させていただく。本日、市長が別の公務により出席できないため、生活文化スポーツ部長の手塚より交付させていただく。</p> <p>2 委嘱状交付</p> <p>3 挨拶 事務局： はじめに正副会長は、引き続き会長を伊藤委員、副会長を貫井委員にお願いしたい旨、委員皆様のご意向を確認したい。</p>	

委員一同：  
異議なし。

会長：  
委員の皆様には、引き続き、「西東京市都市と農業が共生するまちづくり事業」の推進に向けてお力添えをいただきたい。

副会長：  
本事業も「仕上げ」の段階に入るが、西東京市の「まちづくり」という視点で、皆様には今後ともご協力をお願いしたい。

会長：  
本日は、傍聴の方が1名いる。委員の皆様の中に傍聴の異議があるか確認したい。

委員一同：  
異議なし。

#### 4 議事

事務局：

(配布資料の確認)

資料1 第8回西東京市都市と農業が共生するまちづくり推進委員会会議録について、内容を確定させていただくことにご異議ないか？

委員一同：  
異議なし。

(1) 平成24年度西東京市都市と農業が共生するまちづくり事業の進捗状況について  
○会長

それでは、議事(1)「平成24年度都市と農業が共生するまちづくり事業の進捗状況について」、事務局の説明を求める。

事務局：

(資料2 第9回西東京市都市と農業が共生するまちづくり推進委員会会議資料について説明)

会長：

本事業は、「整備」をして終わりではなく、西東京市の各所の特徴を活かし、かつ多面的な事業を進めていくことを念頭にモデルプラン及び実施計画を策定した。本委員会では、当該計画等に基づいて事業の推進に取り組んでいる。平成24年度の事業の進捗状況及び実施予定の部分で挙げられている5つの項目の内、「花摘みの丘」、「農のアカデミー体験実習農園」「農のアトリエ 蔵の里」においては、関係部署との連携が進められている旨の説明があった。また、庁内の都市計画や教育、あるいは公園緑地の部署の方々にも本事業への協力

をしていただいているところである。また、その他の関係する部署にも今後予定している事業に協力していただけるものと期待しているところであり、まさに「多面的機能」という農地の役割を発揮していくような事業になっていくのではないかと考えている。

いよいよ、来年度は、事業としては最終年度となるので、継続的に農地が保全・活用されていくことを目指していかなければならないと思う。

先日開催された「第2回緑のアカデミー」は、私も見学させてもらった。生憎の天候の中、多くの市民の方が参加しており、大変意味のあるイベントとなったのではないかと。また、緑のアカデミーに関連して、「樹木プレート」を田無駅南部に50箇所設置した。50箇所全ての樹木プレートを見たわけではないが、私が見たプレートはどれも農家の方々の「生の声」を書き込んでおり、今まで見たことのない「樹木プレート」で、良い取り組みとなったのではないかと。「樹木プレート」を見た通りすがりの人も話題にしており、喜ばしいことだと思った。

「案内看板」については、実際に現地に足を運び、協力農家の方々と直接話をする機会にも恵まれ、デザインのお手伝いをさせていただいた。デザインのコンセプトとして、市民の人に目を向けてもらえるもの、看板をメインにするのではなく、その奥の農家の方々が丹精込めて手入れをしている圃場の苗木そのものが主役になるようなものという考えでデザインをした。

○委員：

「第2回緑のアカデミー」は、雨が降っており天候は良くなかったが、大勢の市民が参加した。事務局が安全面への配慮をしてくれていたのも、参加者としては大変ありがたいことだと思った。イベントを圃場の一部で開催していただいたのも、普段は立ち入ることができない植木の圃場に入れたことも大変新鮮な経験となった。

一つ気になったのは、参加者の中には目に余るマナーの悪い方もいたので、田無緑化組合の方々などに失礼だと感じた。私の友人の中には、今回のイベントの抽選にはずれた人もいたので、アレンジメントに使用する植木の数を減らせば、もっと多くの方が参加できるのではないかと。大変良い経験ができたので、もっと沢山の人も経験してもらいたいと思った。

また、樹木プレートは、街中でよく見かける樹木名板とは違い、圃場を所有するそれぞれの農家の方々の生の声が紹介されており、とても温かみのあるものとなっている。

委員：

花を使用したイベントはあるかもしれないが、植木を活用したイベントで、間近で植木職人の技にふれる機会は大変珍しいかと思う。前回の「第1回緑のアカデミー」では、5mの木の「根巻」の実演を田無緑化組合の方々にしていただいた。今回は、圃場にある木に梯子を掛けて「剪定」の実演をしていただいた。日常、植木職人の方々の剪定作業をじっくりと見ることはないので、参加者の方々にとっても大変新鮮な実演だったと思う。実演をしていただいた組合員の方々もこの道40～50年の大ベテランだが、剪定をして拍手をもらったのは初めての経験ではないかと感じている。

○委員：

担当講師の職人の方に、自分のアレンジメントの剪定をしていただいたが、やはりプロの植木職人の方に剪定をしてもらおうと、見栄えも違ってくる。

会長：

続いて、北町の「農のアカデミー体験実習農園」について、副会長は指導農家として参加されているので、ぜひ感想をお願いしたい。

副会長：

「農のアカデミー体験実習農園」では、子ども達が農にふれ合う場を提供したり、援農ボランティアのスキルアップのための場所として事業を進めている。今年度農園を訪れた子ども達は、種蒔と収穫だけではなく、生育観察や除草のためにも農園を訪れたので、色々なことが経験できたのではないか。今の子ども達は、なかなかダイコンやニンジンに葉っぱがついた状態のものを目にもすることも少ないかと思うので、そういう意味でも勉強になったかと思う。また、子ども達だけではなく、参加した子ども達から話を聞いた保護者の方々にも、農園を訪れたいと思っている人もいると聞いている。今後は、北町だけではなく、市内の他のエリアでも同様の取り組みを展開していければと思う。

会長：

めぐみちゃんメニューやマーケット事業については、今後部会で検討を進めて、次回の委員会で来年度の事業展開について議論をしていきたいと思う。

続いて、議事（2）「平成24年度西東京市都市農業フォーラムについて」、事務局の説明を求める。

議事（2）「平成24年度西東京市都市農業フォーラムについて」

事務局：

（資料3 平成24年度西東京市都市農業フォーラムの企画概要について説明）

会長：

第1回、第2回の都市農業フォーラムでは、参加者アンケートを実施しているかと思うが、今回のフォーラムでもアンケートは実施するのか。

事務局：

実施する予定である。

会長：

議事（1）、（2）を含めて、その他何かあれば発言をお願いしたい。

委員：

資料2の中で掲載されている「めぐみちゃんのまちづくりだより」の裏面に記載されている事業名に抜けがあるので、修正していただきたい。

また、今後の事業の中での他の部署等との連携の予定があれば教えてほしい。

事務局：

「めぐみちゃんのまちづくりだより」の件については、発行前に修正を行う。

今後の関係部署との連携については、実際に施設整備だけではなく、ソフト事業も含めて

調整をしているところである。本日、資料2の中で紹介した、保谷駅南部エリア事業である「農のアトリエ 蔵の里」については、既に複数の部署と事業の連携に係る調整を始めている。また、今年度については、「花摘みの丘」の運営が始まった4月から、庁内の各部署にPR行ったところである。今後とも、市民への周知だけではなく、庁内にも事業を広くPRしていきたいと思っている。まちづくり事業全体で連携をするということは、なかなか難しいが、ひとつひとつの取り組みの中で各課との連携を進めているという理解をしていただければと思う。

会長：

事業の連携については、計画が挙がってきた時点で本委員会でも報告をしてもらえればと思う。

委員：

「花摘みの丘」については、ハード整備は終了したかもしれないが、ソフト面での支援がまだまだ必要だと思う。時々、市の担当者が「花摘みの丘」の様子を見に訪れるだけでも力になるのではないかな。

先日開催された「東大マルシェ」に行ってみたが、かなり混雑しており主催者も慌しくしていたので、JAや農家、市からの支援がないと運営も難しいのではないかと感じた。

「ファームカー」の事業化については、事業内容を十分に検討してから事業化した方が良いかと思う。

事務局：

「東大マルシェ」については、残念ながら市に対する協力の要請等は無かった。「ファームカー」については、来年度の事業化を目指している。ファームカー整備後については、「東大マルシェ」のようなイベントにも活用できればと考えており、今後、東大生態調和農学機構とも協議をしていければと考えている。また、本まちづくり事業で整備された各拠点との連携、あるいは庁内の横断的な連携、又はJAとの連携等も視野に入れつつ、活用の拡大を検討していきたい。「ファームカー」は、販売機能について注目をされてしまうが、車載モニターや音声により「農業の普及啓発」を図るとするのが最大の目的である。イメージビデオ、イメージソングの制作等も予定しており、「農業の普及啓発プロジェクト」としての位置づけを行っていく予定である。

会長：

「ファームカー」の整備については、モニターの設置やイメージソングやビデオの制作の話が事務局より提案されているが、整備内容には工夫が必要になるかと思う。東京都の補助が平成25年度までという時間的制約の中で、本事業では東大生態調和農学機構での事業展開は実現ができないという経緯になっているのは皆さんにもご承知いただいているかと思う。

「ファームカー」は、既に整備が完了した「花摘みの丘」、「緑のアカデミー」等のイベントを開催している田無駅南部エリア、そして今年度施設整備を行っている保谷駅南部エリアの「農のアトリエ 蔵の里」とも連携を図っていくことが可能である。同様に、「東大マルシェ」のような本事業以外のイベント等とも、連携する一つのツールとして活用されるよう検討をしていく必要があるのではないかな。

委員：

前回の委員会でも意見を述べさせてもらったが、本事業の広報をもっと工夫してはどうか。例えば、先日、「緑のアカデミー」のチラシと看板を事務局が作成し、「市民まつり」で配布・掲示を行った。その後、参加希望の応募者数が伸びたの実績もあり、広報の重要性を認識しているところである。市で行うイベントは、通常「市報」にお知らせを掲載することが多いかと思うが、スペースの都合上、紙面の文字サイズが小さく、市民の目に留まりにくいのが現状なのではないか。色々な広報活動を行い、まずは市民の皆さんに本事業について知っていただくことが大事だと考える。

事務局：

事業の広報については前回の委員会での指摘を踏まえて、今回の「緑のアカデミー」開催に際して、市報及び市ホームページへの掲載に加え、市内の全小学生（19の小学校約9,300人の児童）にチラシ配布を行った。また、田無緑化組合の皆さんにもご協力いただき、市民まつりでもPRを行っていただいた。市ホームページのアクセス件数については、10月末までで411件あり、これは10月中の全庁内のイベント告知の中で「第6位」という結果となった。市の農業関連のイベントとしては大変良い結果となっており、今後集計が出る11月のアクセス数にも期待しているところである。

委員：

第1回目と第2回目の「緑のアカデミー」の応募者数はどのくらいあったのか？

事務局：

第1回目の「緑のアカデミー」の応募倍率が1.6倍（定員100名）、第2回目の「緑のアカデミー」の応募倍率が1.33倍（定員200名）であった。

委員：

北町の「農のアカデミー体験実習農園」については、指導農家や援農ボランティアの方々、子ども達も楽しんで作業をしているように感じる。農園の場所が市の北側なので、協力をしていただける農家や農業委員が限られてくるかと思うので、今後近隣の一般市民の方々にも、運営のお手伝いをしてもらってはどうか？

事務局：

来年度は、新たに芝久保小学校が「農のアカデミー体験実習農園」に参加するので、芝久保町の農家の方々にも指導農家として運営に協力をしてもらえればと考えている。また、「農のアカデミー体験実習農園」を援農ボランティアと農家のマッチングを行う場としても活用していきたいと思う。

## 5 その他

○事務局：

次回の委員会は、2月中を目処に、日程と場所が決まり次第お知らせする。

《閉会》